

# 基 調 提 案

## 1 研究主題

他者と協働し、主体的によりよく生きる力をはぐくむ道德教育  
～自ら深く考え、議論する道德の時間を通して～

## 2 主題設定の理由

知識基盤社会の到来と情報通信技術の急速な発展、社会・経済のグローバル化や少子高齢化の進展など、我が国の社会は大きく変化してきた。また、教育現場においては、未だ深刻ないじめ問題や不登校、暴力行為等の問題を抱えている。そうした学校を取り巻く状況の変化や教員が対応すべき課題の多様化・複雑化に対して、教員個々の対応から組織として対応する学校へと変化させていくことや、学校・家庭・地域の連携、協働の下、地域とともに歩む学校へと転換させていくことが求められている。そうした中、子供たちには、絶え間なく生じる新たな課題に向き合い、自分の頭でしっかりと考え、また他者と協働しながら、よりよい解決策を生み出していく力を身に付けさせなければならない。

平成27年3月27日には学校教育法施行規則が改正され、「道德」を「特別の教科である道德」とするとともに、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の一部改正の告示が公示された。このことにより、学校では、生徒の発達の段階に応じ、答えが一つではない道德的課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道德」、「議論する道德」への転換が求められることとなった。

また、次期学習指導要領改訂の視点は、子供たちが「何を知っているか」だけではなく、「知っていることを使ってどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」ということであり、改訂に向けて「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）」が提起されている。

呉市では、昨年度から学校教育推進のキーワー

ドの一つとして「協働」を掲げている。各校の道德教育推進教師等による道德教育推進協議会のアンケート結果（一部抜粋）をみると、“組織としての学校の対応”や“学校や家庭、地域の連携・協働”において、微増ではあるが概ね改善が図られつつある。しかし、まだまだ改善の余地があることは否めないと考えている。

表1 道德教育推進協議会アンケート結果

アンケート項目(一部抜粋)	H27	H26
研修内容と学校の重点課題とのつながりが明確になっている。	91%	92%
道德教育推進教師を中心に、研修の企画・運営を協働して行っている。	83%	78%
研修成果を実践につなげやすくする工夫を行っている(参加型研修等)。	65%	60%
近隣校同士の道德教育に関する情報交換や研修は充実している。	69%	58%
自校では、道德教育の取組を通信やホームページなどで計画的に紹介していますか。	65%	63%
校外の道德教育に関する研修の内容を回覧等で校内に情報提供している。	86%	82%
自校では、「道德の時間」を保護者に公開している。	100%	100%
自校では、「道德の時間」を地域に公開している。	88%	85%
自校では、道德教育について保護者や地域の方々懇談会をもっている。	68%	71%
自校では、保護者や地域の人々の参加・協力による道德授業を行っている。	58%	63%
自校では、地域の人材の協力を得て、魅力的な教材を開発している。	48%	35%

「協働」に係る取組における呉市の課題を克服し、今後求められる教育を推進していくためには、まず、学校単独ではなく“呉市総体”で取り組んでいくという考え方に立つことが望ましいのではないかと考えた。そして、「これからの時代に求められる資質・能力の育成」や、「アクティブ・ラーニング」の視点からの学習・指導方法の改善を先取りし、「考え、議論する」道德科への転換を図るとともに、呉の学校教育のキーワードの一つである「協働」や長年取り組んできた小中一貫教育を踏まえた効果的な指導方法等の開発や共有など、道德の時間の充実に資する取組を進めていく必要があると考えた。

そこで、会員相互の連絡・協議及び共同研究により、呉市立中学校道德教育の発展に寄与するこ

とを目的とする道徳部会において、今年度の研究テーマを「他者と協働し、主体的によりよく生きる力をはぐくむ道徳教育～自ら深く考え、議論する道徳の時間を通して～」と設定し、授業研究を基本とした取組を呉市道徳部会と学校を連動させ進めていくこととした。

### 3 研究仮説

- 呉市道徳部会において、授業研究を中心とした教員の学び合い・磨き合いの場を設定し、協働体制を構築すれば、教員の指導力の向上がより一層図られるであろう。
- 道徳の時間において、自ら深く考え、議論する機会と場を保証したり、地域人材の参画を促したりするなど、多様な考え方を生かす工夫をすれば、主体的によりよく生きる力をはぐくもうとする意欲をもたせることができるであろう。

### 4 研究内容

#### (1) 呉市道徳部会における「チームくれ」協働体制の構築

- 部会研修（全体及びブロック別）において指導主事を招聘し、道徳教科化に係る共通理解を図る。
- 部会研修（ブロック別）における模擬授業、研究授業を通して、学習指導案の改善を図る。
- 授業研究による指導方法の工夫改善を図る。
- 教材開発や既存資料の工夫改善を図る。

#### (2) 各中学校における「考え、議論する」道徳科への転換を目指した授業づくり

- 多様な考え方を生かすための言語活動を道徳の時間に取り入れる。
- 問題解決的な学習、体験的な学習など多様な指導方法の工夫をする。
- 「協働」に係る授業プランを取り入れ、家庭

や地域社会との連携による指導の充実を図る。

#### 【「協働」に係る授業プラン例】

- ① 呉市作成の地域教材の活用
- ② 自作資料の活用
- ③ ゲストティーチャーの活用
- ④ 小学校教員とのチーム・ティーチング
- ⑤ 保護者参加型授業 など

- 教材開発や既存資料の工夫改善を図る。

### 5 研究内容に係る取組について

道徳部会及び各中学校における取組について述べる前に、まず、その基盤となる呉市における道徳教育の推進について述べさせていただきます。

#### (1) 呉市における道徳教育推進について

##### ア 学校教育に係る経営指針

学校の使命は、「確かな学力」、「豊かな心」そして「健やかな体」を育むことを通し、子供たちが社会の中で自立的に生きるための基礎と、社会の担い手として必要とされる資質を養うことである。

呉市においては、各中学校区の特徴を活かした小中一貫教育を進める中で、子供たちの自尊感情を育て、夢に向かって挑戦する気概を育てている。

学校は地域の活力を生む拠点であり、子供たちは、多くの人との関わりやつながりの中で様々な体験をしながら成長する。今年度は、そのような人との関わりやつながりを生かし、昨年度と同様に「協働」をキーワードとして、充実した教育活動を進めていくこととする。

子供たちの「確かな学力の向上」と「規範意識の涵養・社会性の定着」に向け、子供と教職員、子供同士、学校と学校、また、学校と家庭や地域など、多くの人とのつながりを深め、互いの役割を果たしながら共に力を合わせ、各学校が特色ある「協働」による教育活動を充実させていくこと

### 視点

#### ★ 道徳教育の抜本的改善・充実

－ “言いたい” “聴きたい” “考えたい” そして、“語り合いたい” －

【協働】異校種や同校種間及び家庭・地域との連携強化

【小中一貫】道徳教育の連続性・一貫性の確立

【主体的な学び】新たな価値観の創造 「あなたならどのように考え、行動・実践するか」



とする。

今年度も、小中一貫教育の取組をより一層進めるとともに、郷土を愛し、郷土に誇りをもてる心豊かでたくましい「夢を持ち、夢を語り、志を抱く呉の子ども」を育てていくこととする。

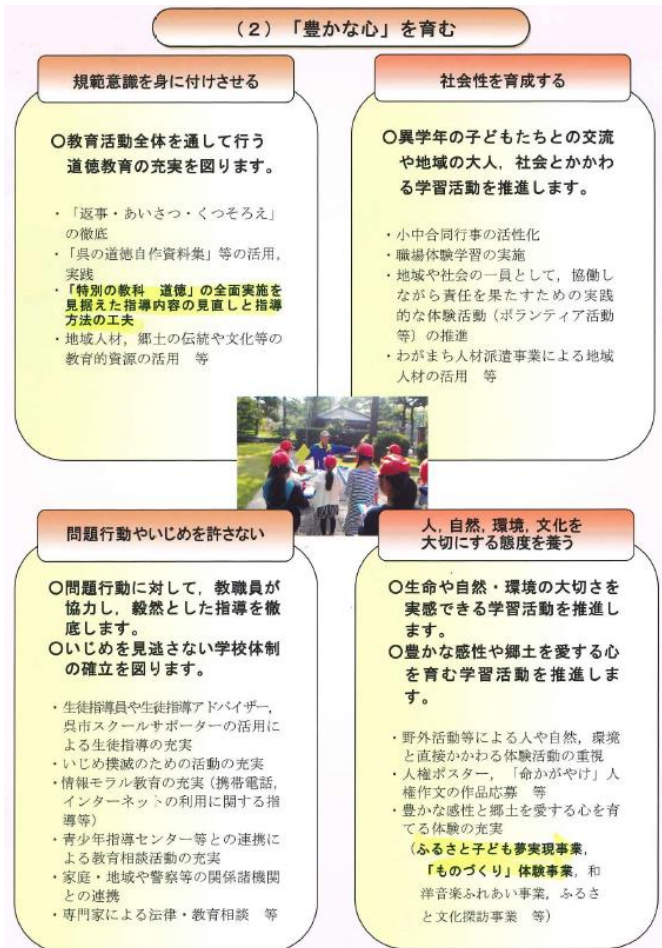


図2 「豊かな心」育成に係る呉市の経営方針

### イ 地域教材の作成

呉市では、平成21年度から3年間かけて、呉市内の教職員による地域等を素材とした道徳の時間の読み物資料集を独自に作成している。前期、中期、後期それぞれの段階で、すべての内容項目について資料及び活用例を作成している。学校には付録CDを配布しており、資料に合わせ登場人物や場面等のイラストも入れている。学校、児童生徒の実態に合わせ、改作して活用することができる。

本資料が、児童生徒にとって他者、社会、自然等との豊かな関わりの中で生きるという実感を改めて認識したり、優れた文化、先人の苦労や偉業、

歴史等に触れたりすることで、郷土への愛情、誇りを持ち、地域社会における自分の立場を考える有効な手がかりとなることを大いに期待しているところである。



第1集

第2集

第3集

<https://www.city.kure.lg.jp/soshiki/63/jisaku.html>

### (2) 呉市道徳部会における「チームくれ」協働体制の構築

#### ア 研究の構想

平成25年12月の「道徳教育の充実に関する懇談会」報告では、道徳教育の具体的な指導方法をめぐって、次のような課題が指摘された。

- ・ 学校間や教師間の差が大きい
- ・ 各教科等との役割分担や関連を意識した指導が不十分
- ・ 指導方法に不安を抱える教師が多い
- ・ 学年が上がるにつれて、児童生徒の受け止めがよくない
- ・ 振り返らせたり、具体的にどう行動すればよいかという側面に関する指導が不十分 など

本道徳部会では、上記の報告で指摘された課題の中で、とりわけ“学校間や教師間の差が大きい”ことや“指導方法に不安を抱える教師が多い”ことに着目した。

呉市のもつ同様の課題の克服に向け、生徒の特性、学校や地域の実態を踏まえ、各学校において創意工夫をこらすことが大切であるという前提に立ちつつも、道徳部会を中心として呉市総体で協働的に取り組んでいくこととした。

そこで、本道徳部会はこれまで道徳教育を推進するに当たり、とりわけ道徳の時間の充実が必要不可欠であるという共通認識の下、授業研究を基本とし、実践的に研究を進めてきていることから、そうした基盤を活かし、学校間・教員間の協働体制を構築することが、教員の指導力の向上に資す

るであろうと考えた。

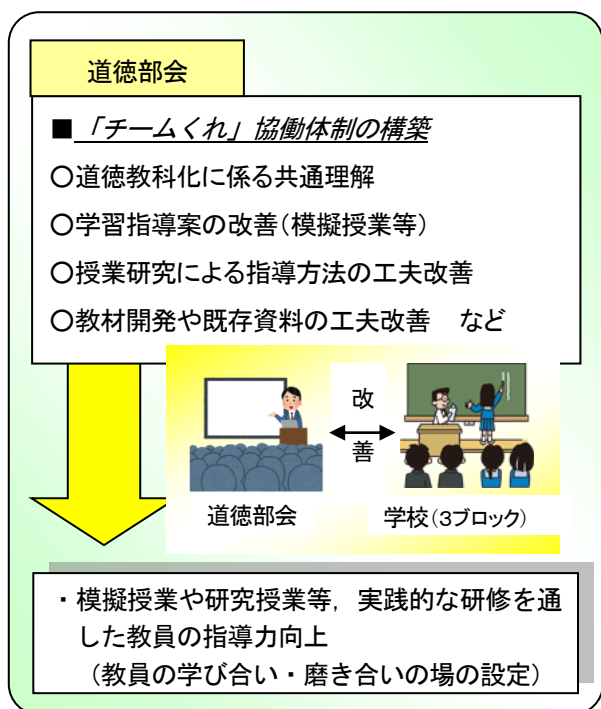


図3 呉市道徳部会の構想図

研究推進上の取組のポイントは、大きく次の3点である。

- 道徳教科化への対応
  - “考え、議論する道徳” への転換—
- 広島版「学びの変革」との関連を図り、学習指導案へのICEモデル導入
- 道徳の時間における呉市の学校教育のキーワードである「協働」の具現化

### イ 道徳部会の取組

今年度、次のような計画の下、取組を進めていくこととした。

表2 呉市道徳部会等の年間計画

道徳部会		学習指導案の検討
5月	第1回部会 ☆5/25 総会	
8月	第2回部会 ☆8/3 小中合同研修会（夏季研修会） 模擬授業（ブロック別）	
9月	第3回部会 ☆9/ 9 ブロック別授業（片山中学校） ☆9/21 ブロック別授業（和庄中学校） ☆9/27 ブロック別授業（両城中学校）	
10月	第4回部会 ☆10/26 県大会打ち合わせ等	
11月	11/18 第31回広島県中学校道徳教育研究大会	
2月	第5回部会 ☆2/15 小中合同研修会	

注) 道徳部会員は適宜意見を提出（自校での授業実施後 or 紙上検討後）

道徳部会の研修は年間5回である。とりわけ模擬授業や研究授業の実践的な研修を通して、教材や学習指導案の作成を軸に教員自らが“主体的・協働的な学び”に取り組むことにより、これからの教育の方向性を踏まえた効果的な指導方法等の開発や共有など、「チームくれ」協働体制の構築を図るとともに、教員の指導力の向上につなげていく。

### 《 学習指導案の完成に向けた流れ 》

① 学習指導案の作成

② 模擬授業の実施



・「考え、議論する」ためには話し合う時間ももっと必要だね。  
・資料はもう少し簡潔にした方がいいね。 など

模擬授業後の協議の様子

③ 学習指導案の改善

④ 研究授業の実施



研究授業の様子

自分にはないアイデアがたくさん出て、とても勉強になるな。

・授業展開は学級の実態に合っていたかな。  
・中心発問はねらいに迫るものであったかな。  
・地域の方の活躍場面がもう少し必要だったのでは。  
・意図的指名も大切だね。 など



研究授業後の協議の様子

- ・書かせる場面をもう少し絞る必要があるのかな。
- ・しっかり書かせるにはもう少し時間が必要だね。 など



ワークシートの記述

⑤ 学習指導案の改善・・・→ 《完成》

このように、一つの学習指導案を作成するために、道徳部会会員の叡智を結集し、試行錯誤を繰り返しながらも、広島県教育委員会及び呉市教育委員会の指導主事の指導助言を受けながら、完成させていった。その結果、教員研修の活性化と教員の意識の向上が図られていった。

(3) 各中学校における「考え、議論する」道徳科への転換を目指した授業づくり

ア 研究の構想

「考え、議論する」道徳科への転換を図ることを取組の要諦とする。

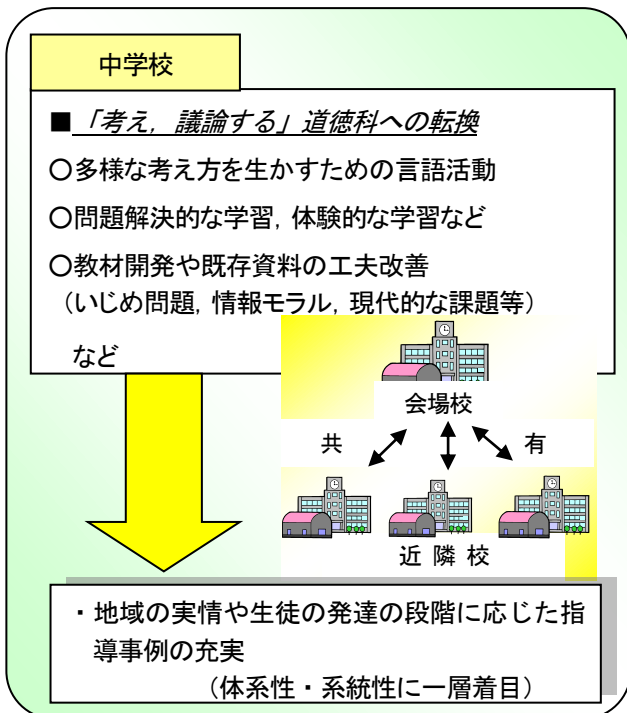


図4 各中学校の構想図

道徳部会事務局が示した「協働」に係る授業プラン例を参考に、「協働」を視点とした指導方法を取り入れるとともに、「主体的な学び」が促されるよう「考え、議論する」機会と場を保証する授業づくりに取り組んでいくこととした。

生徒が“言いたい” “聴きたい” “考えたい”そして、“語り合いたい”道徳の時間となるよう改善・充実を図っていきたいと考える。

各授業における「協働」に係る授業プランは次のようなものとなる。

表3 授業提案校の「協働」に係る授業プラン

学年	主題名等	資料名等	所属校	協働に係る授業プラン
1 学年	思いやり B (6)	「とべないホテル」 《『とべないホテル』ハート出版 改作》	県中央中学校	ゲストティーチャーの活用
	生命の尊さ D (19)	「命を本気で守る」 ～消防職員としての生き方から～ 《自作資料》	片山中学校	自作資料の活用 ゲストティーチャーの活用
2 学年	克己と 強い意志 A (4)	「決断」 《『決めて断つ』黒田博樹 KK ベストセ ラーズ, 中国新聞朝刊記事》	県中央中学校	自作資料の活用
	友情, 信頼 B (8)	「ライバル」 《『心豊かでたくましい呉の子どもを はぐくむ道徳 第3集』》	両城中学校 両城小学校	呉市作成の地域教材の活用 小学校教員とのチーム・ティーチング
3 学年	よりよく 生きる喜び D (22)	「葵のジレンマ」 《『モラルジレンマ資料と授業改善』 明治図書 改作》	県中央中学校	自作資料の活用 チーム・ティーチング
	希望, 勇気 A (4)	「風に立つライオン」 《『自分をのばす』あかつき》	和庄中学校	保護者参加型授業

イ 授業づくりにおける工夫点

授業提案に向けて、道徳部会研修や校内研修において、学習指導案を何度も修正しながら、改善に取り組んできた。（※詳しくは当日の学習指導案参照）

《各校共通》 ※生徒：対話による他者との協働

〔多様な考え方を生かすための言語活動の充実〕

☆中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」  
生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に討論したり書いたりするなどの言語活動を充実すること。

- 「考え、議論する」場面の設定  
(内省や熟慮するペアトーク、グループ学習等)
- 「自己を見つめ、表現する」場面の設定  
(考えたことを言語化、概念化、視覚化する書く活動等) ※自己内対話

では、「考え、議論する」「協働」について、各学級の主な工夫点を具体的に述べたいと思う。

## 【1学年】

### 呉中央中学校

#### ○ 考え、議論する

本時の授業で扱う資料は、生徒が既に小学校4年生で学習した「とべないホテル」である。小学校では主人公のとべないホテルの気持ちに焦点を当てて考えさせているが、中学校では身代わりになったホテルや周りのホテルの気持ちをより考えさせることとした。そのことにより、既習事項を生かしながら、新たな考える視点を与えられるとともに、自分自身の問題（「あなたならどのように考え、行動・実践するか」）と捉え、向き合うことができ、議論が深まるようになって考えた。

#### ○ 協働する ー地域とのつながりー

本学級は「こぐまちゃんの絵本の会」の方による読み聞かせを何度か経験しており、絵本に対して親しみを持っている。絵本の会の方の読み聞かせにより、資料の内容を臨場感をもって理解できるようになると考えた。

### 片山中学校

#### ○ 考え、議論する

本時は、体験活動を活用した授業である。片山中学校区ではこれまで地域と協働した防災教育に取り組んできた。小学校における防災学習では、助けられる側の視点から命について考えさせているが、中学校では助ける側の視点へと発展させ、新しい考え方や見方が生み出されるようにした。また、特別活動等の体験活動を想起させることにより、問題意識が高まり、議論が深まるようになって考えた。

#### ○ 協働する ー地域とのつながりー

本時の授業で扱う資料は、小学校からの防災教育に係る学びをさらに深めていけるよう、地域の方の消防活動や防災教育に込める思いをインタビューし、自作したものである。実際にゲストティーチャー（本物との出会い）として参加していただくことにより、授業の効果を一層高められると考えた。

## 【2学年】

### 呉中央中学校

#### ○ 考え、議論する

本時の授業では、広島東洋カーブの選手である

黒田博樹投手の悩み、決断する姿を、自分に引き付け、これからの人生における進路選択などに生かされることを期待したものである。ペアトークなど生徒の実態に即した話合いの方法を取り入れることにより、自分の考えを表現しやすくなったり、友達の考え方についての理解がしやすくなったりして思考も深まると考えた。

#### ○ 協働する ー教職員同士のつながりー

本時の授業で扱う資料は、黒田投手が書かれた本や新聞記事を活用したものである。「野球に興味がない」「カーブに戻る前の黒田投手を知らない」といった生徒も少なくない。そこで、学年の教員が、カーブに係わる新聞記事を切り抜き掲示し、学級で話題にしたり、指導案の検討を行ったりして、協働的に取り組むことにより、生徒の実態に深く考えさせる授業づくりができると考えた。

### 両城中学校

#### ○ 考え、議論する

本時は、ティーム・ティーチングによる授業である。教員が異なった考え方を担当したり、グループによる話合いにおいて教員が的確な助言を行ったりすることにより、話合いを活性化させ、議論が深まるようになって考えた。

#### ○ 協働する ー小学校とのつながりー

小中一貫教育に係る取組の中で相互の乗り入れ授業を行っている。両城中学校区では、“学校へ行こう週間”での地域公開（全学級道徳授業）において、平成26年度から道徳の授業（中学校第1学年）における小学校教員（基本、前年度6学年担任）とのティーム・ティーチングを実施している。小中の教員が、授業づくり（実態把握→授業の構想（資料の改作を含む）→授業の実施→評価）に協働的に取り組むことにより、道徳の授業の質的な高まりが期待できると考えた。

## 【3学年】

### 呉中央中学校

#### ○ 考え、議論する

本時は、問題解決的な学習を取り入れた授業である。身近にある社会的な課題に目を向け、答えのない問題に自分なりの考えをもたせ、議論を重ねる授業を行うことにより、議論の深まりとともに、生徒の主体的な学びを促すことが期待できる

と考えた。また、ネームプレートを活用し、生徒の考えの視覚化を図ることにより、議論が活性化できると考えた。

○ 協働する —教職員同士のつながり—

本時の授業で扱う資料は、生徒にとって身近な部活動を題材とし、主人公の悩みに共感しやすくしたモラルジレンマ資料である。生徒の実態を十分把握している学年教員が検討を重ね作成したものである。当日は資料の特質を把握している同学年の教員によるチーム・ティーチングを行うことにより、授業の効果を一層高められると考えた。

**和庄中学校**

○ 考え、議論する

本時の授業で扱う資料は、青年医師である主人公の高い志と深い思考に基づく話であり、生徒のこれまでの経験による思考だけでは一面的なものに陥りやすいことから、各班1名ずつ「おやじの会(和庄中学校の父親有志で結成された会)」の方に加わっていただくこととした。グループによる話合いでは、人生の先輩としての視点から生徒の思考に揺さぶりをかけることにより、物事をより広い視野から多面的・多角的に考えることができ、議論も深まると考えた。

○ 協働する —家庭とのつながり—

本時では、授業の一部に参加するゲストティーチャーではなく、生徒といっしょに授業を受ける保護者参加型授業に挑戦することとした。ともに授業をつくっていくことで、「対話的な学び」の視点からも道徳の授業の質的な高まりが期待できると考えた。

これまで述べてきた工夫のほか、各校では、導入において事前のアンケート結果を活用したり、教材(補助教材を含め)の提示として写真やビデオなどの映像を視聴させたりするなど、生徒の感性や知的な興味などに訴え、生徒が問題意識をもち、主体的に考え、話し合うことができることを期待し、指導方法を工夫してきた。

**【留意点】**

- 実態把握(生徒や学級の実態に即した話合いの工夫等)
- 時間確保(議論する時間、内省する時間等)
- 綿密な連携(本時のねらいの共通理解等)

**ウ 呉中央中学校の取組 —呉市の小中一貫教育—**  
**【平成27年度】**

平成12年度に当時の文部省から「研究開発学校」の指定を受けて小中一貫教育の研究を始め、今年で16年目を迎えた。平成19年4月には、公立学校で県内初となる小中一貫教育校『呉中央学園』が開校し、平成23年4月からは、同一敷地内での小中一貫教育を展開している。

研究を進めるための組織として、「豊かな学びプロジェクト」「豊かな生き方プロジェクト」を設置した。教職員は全員2つのプロジェクトに所属した。「豊かな学びプロジェクト」では、9年間を見通した小中一貫カリキュラムを生かすための課題分析や検証授業を行っている。

「豊かな生き方プロジェクト」は道徳教育について研究を進めている。

それぞれのプロジェクトの取組は、学園全体で授業研究を行うとともに、協議会で授業の成果や課題について明確にするとともに、学園全体で共有できるように学習指導案や研修資料等を全職員に配付している。

ここでは、道徳教育の推進に関わり、「豊かな生き方プロジェクト」の取組について述べることとする。

「豊かな生き方プロジェクト」では、道徳教育の改善・充実と「道徳の教科化」への対応について、次の内容の研究を進めていった。

- ・理論研修や授業研究を行い、道徳の時間の授業改善を図る。
- ・児童生徒の実態に即した学習プログラムの開発を行う。
- ・道徳教育における評価の在り方を研究する。
- ・地域の人、もの、自然、文化施設など、特徴を生かした自作資料の開発を行う。

○ 理論研修

とりわけ道徳の時間については、問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れるなど、「特別の教科 道徳」の方向性が示されたことを受け、これからの道徳教育の実践が充実していくように学園で計画を立て、外部から講師を招聘した理論研修を次のように行った。

表4 理論研修講師一覧

期日	研修内容	講師
5/11	児童生徒の心に響く道徳の授業づくり	県立教育センター 中野詠美子指導主事
6/2	「特別の教科 道徳」の設置とこれからの道徳教育	昭和女子大学 押谷 由夫教授
6/12	「特別の教科 道徳」が目指す道徳教育の新しい展開	聖徳大学大学院 古本 恒幸教授
6/17	道徳教育の充実のために	文部科学省 赤堀 博行調査官
7/10	「特別の教科 道徳」の基本的な考え方	昭和女子大学 押谷 由夫教授
8/17	生徒指導の三機能を生かした授業づくり	県立教育センター 竹谷 浩子指導主事
11/6	今、求められる道徳教育の充実	文部科学省 赤堀 博行調査官

○ 自作資料の開発

地域に根ざした資料の開発を目指して、読み物資料づくりの研究を進めた。中学校では公開授業に向けて、7学年は「宇宙への挑戦」、8学年では「三つの桃」という2つの資料を作成した。また、学園では全部で8つの資料を作成した。

表5 開発教材

内容項目	資料名	協力者、資料等
A 強い意志	宇宙への挑戦	二河中学校卒業 的川泰宣 JAXA 名誉教授・技術参与
C 家族愛	三つの桃	呉市出身女優 宮崎恭子 講談社「大切な人」より

○ 研究実践の例

**広島県道徳教育研究協議会**

期日 平成27年6月12日(金)

学年・学級 第9学年2組

主題名 目標に向かう強い意志(A 希望と勇氣, 克己と強い意志)

ねらい

対戦相手の死を乗り越え世界王者になった名城信男選手の心の葛藤について話し合うことを通して、そこにある強い意志に気付かせ、どんなことがあっても目標に向かって努力しようとする意欲を育てる。

資料名 「名城信男選手の葛藤」(改作)

出展: 心豊かでたくましい呉の子どもをはぐくむ道徳〔第1集〕呉市教育委員会

協議会から

協議会では、資料と映像を組み合わせた授業展開の工夫や生徒と教師のよい人間関係のもとで行われた授業であったこと、中心発問では、他の選択肢も含めた授業展開も考えられるのではないかとといったことなどの多数の意見が出された。指導主事からは、発問

の切り口についての考え方や生徒の発言の場についての指導助言があった。

**広島県(中国地区)小学校道徳研究大会**

呉中央中学校では、昨年度、呉中央小学校を会場に開催された第17回中国地区小学校道徳教育研究大会、第29回広島県小学校道徳教育研究大会において、第7学年(中学校第1学年)と第8学年(中学校第2学年)が公開授業を実施した。

【公開授業Ⅰ】

期日 平成27年11月6日(金)

学年・学級 第7学年1組

主題名 理想の実現(A 希望と勇氣, 克己と強い意志)

ねらい

小惑星探査「はやぶさ」にかけた人類初のプロジェクトを幾多の困難を乗り越え成功させた的川さんについて話し合うことを通して、どんなことがあっても最後まであきらめず確実にやり抜こうとする心情を育てる。

資料名 「宇宙への挑戦」(自作資料)

期待される効果

目標達成のためには強い意志を持って地道に計画的に実行していくことが大切であるということに気付かせ、困難を乗り越え、失敗を恐れずに新しいことに挑戦しようとする気持ちや未来への夢や展望をもたせることが期待される。

【公開授業Ⅱ】

期日 平成27年11月6日(金)

学年・学級 第8学年2組

主題名 家族の深い絆(C 家族愛, 家族生活の充実)

ねらい

親の思いや家族のつながりについて考え、家族を愛おしむ心情を育てる。

資料名 「三つの桃」(自作資料)

(参考『大切な人』宮崎恭子:著)

期待される効果

終末で使用する「誰かのために」(私たちの道徳に掲載)の学習と併せて、家族を思う気持ちはいつの時代も変わらず存在しているということを改めて確認し、家族を愛おしむ気持ちを強くもつことが期待される。



○ 結果と考察 ー意識調査からー

「人の気持ち分かる人間になりたい」というアンケートでは、年度当初と12月の結果を比較すると、肯定的な回答の割合はほぼ全員で変化はないが、「とてもそう思う」と回答した割合は、75.7%から82.5%となり割合が増加した。また、「自分には良いところがあると思う」と回答した児童生徒の割合も全学年増加している。特に9年生は肯定的な回答が51%から79%と大幅に増加した。また、図5は「将来の夢や目標を持っているか」という質問の結果である。肯定的回答は全体で87%から94%に増えており、多くの児童生徒が目標や将来の夢について意識をしていることが分かる。

取組を通して、よりよく生きるために必要とされる道徳的価値と真摯に向き合った結果、児童生徒の自己肯定感や他人を大切にしようという意識が向上したと考えられる。

そして、「『道徳の時間』の勉強は好きだ」と回答した割合も、全体で80%から84%に増加した。中でも9年生は、67%から90%と大きく増えている。道徳の時間において、学習指導の多様な展開

に取り組んだ結果ではないかと考える。

今後は、9年生における生徒の意識の変容について、さらなる分析を行い、効果的な取組を他学年にも広げていきたいと考えている。

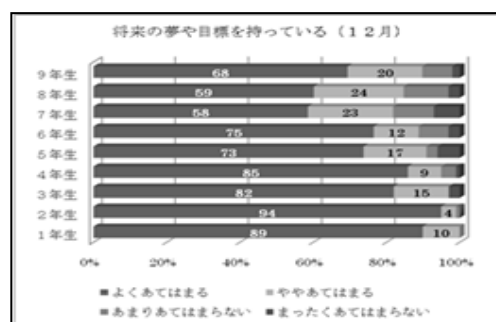
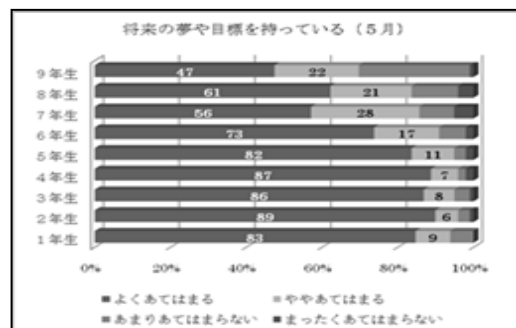


図5 意識調査の比較 (将来の夢・目標)

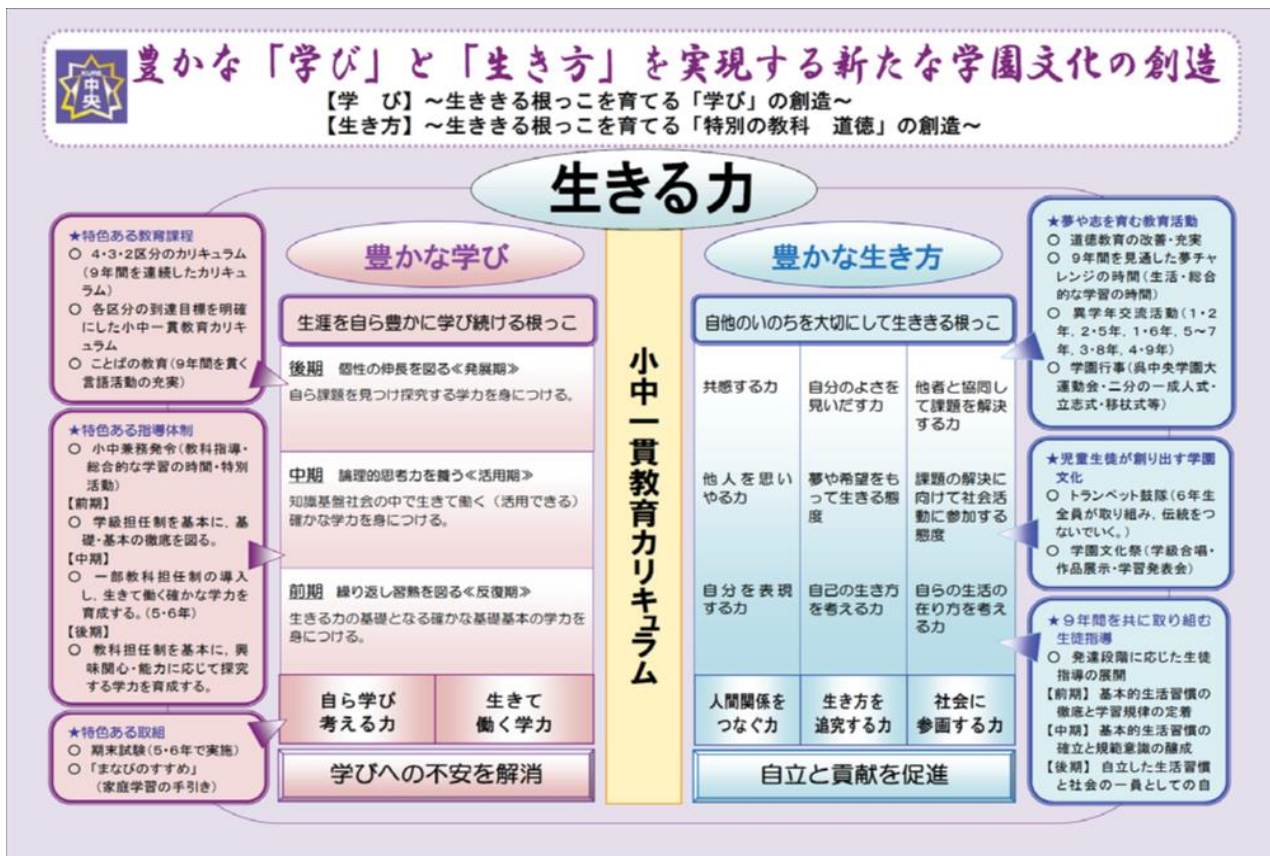


図6 呉中央学園構想図

## ○ 成果と課題

- ・9年間の学びのつながりを明らかにした授業改善を進め、「分かる・できる」授業を創造していくことは、児童生徒に「生きて働く学力」「自ら学び考える力」を身に付けることに効果があることが分かった。
- ・道徳教育において、自分をしっかり見つめることができる学習過程を工夫していくことは、自分や仲間を大切に、将来に夢や希望をもつ児童生徒を育成できることが分かった。
- ・自己肯定感に関する意識調査では、7年生の生徒の肯定的な割合が減少している。交流活動などの取組とともに、日常生活の中で達成感や成就感を味わうことができるような取組を進めていく必要があり、継続して研究を進めていきたい。

### 【平成28年度】

今年度は、昨年度の小学校に続き、県大会の会場校となった。昨年度の成果と課題を踏まえ、次のような計画の下、今年度も継続して小中一貫教育のメリットを生かし、小中合同の校内研修などを通じた道徳教育の改善・充実に取り組んでいくこととする。

表6 H28 呉中央中学校の県大会に向けた計画

会場校（呉中央中学校）		学習指導案の検討
5月	5/11 校内研修（授業研究）	
6月	6/17 校内研（呉中央小学校）	
	6/21 校内研（授業研究）	
9月	9/28 校内研（授業研究）	
10月	10/25 校内研（呉中央小学校）	
11月	11/18 第31回広島県中学校道徳教育研究大会	

研修主題の達成に向けては、呉中央中学校の

#### 呉中央中学校の話し合いのススメ

話し合いのルール  
 ① 人の意見は最後まで聞く。  
 ② 意見が変更を要する。  
 ③ どのような意見でも、否定せず受け入れる。  
 ④ 話し合いがスムーズに進むように全員が協力する。

#### 話し合いの流れの確認

☆ 役割を決める。(司会・記録・発表)  
 1 「一人ずつ順番に意見を発表しましょう。」  
 2 「質問はありますか？」  
 3 「出た意見を聞き合ったり点で整理してみましょう。」  
 4 「みんなの意見を聞いて新たに気付いたことを発表しましょう。」

自分の意見を発表するときは…  
 「～さんの考えと聞いて、～だと思います。理由は～です。」  
 「～さんと同じ考えだけど、理由は～です。」  
 「～さんの考えと違って～だと思います。理由は～です。」  
 「～さんの考えに付け加えて～だと思います。理由は～です。」  
 「～さんの意見を聞いて、～だと思いました。理由は～です。」

質問をするときは…  
 (相手の考えについて尋ねたのお願いのみよ) ・なぜそう考えたの？  
 ・どうしてそう思ったの？  
 (相手の考えをもっと深く聞いてみよう) ・～のときはどうなの？  
 ・～はどういう意味？  
 ・つまりはどういうこと？  
 (相手の考えについて自分の思いを出してみよう) ・～は～という考え方？  
 ・自分も～と思うのだけど、どう思う？

スタンダード“話し合いのススメ”を策定し、教職員の共通理解の下、話し合いが効果的に展開するよう組織的に取り組んでいる。そのことにより、生徒は他者と協働し、相互の考えを一層深めていくことができるものとする。

## 6 今後に向けて

昨年度呉市では、この度の広島県中学校道徳教育研究大会の開催について、学校単独の研究ではなく、呉市立中学校教育研究会道徳部会を中心とした“呉市総体”での研究として協働的に取り組むことと決定した。それは、先述した国全体の課題であり、呉市の持つ課題でもある“学校間や教師間の差が大きい”ことや“指導方法に不安を抱える教師が多い”ことの克服につながるるとともに、道徳教育の抜本的改善・充実に資することができるものと考えたからである。

試行錯誤の繰り返しであったが、これまでの取組の成果は次のとおりである。

○ 教材や学習指導案の作成を軸に、協働的に授業研究に取り組むことは、教員にとって授業づくりなどの不安を軽減し、指導力の向上に資することができた。また、生徒理解を深めることにもつながった。そのことは、生徒指導を行う上において有効であると考えられる。

○ “考え、議論する”機会の場の保証は、多くの教員の指導上の課題である“待つ”ことの重要性の理解につながるということが分かった。また、生徒が他者と協働し、主体的な学びにつなげていけることも分かった。生徒の意欲的な活動とするには、グループによる話し合いの時間を少なくとも10分～15分程度は保証したい。

○ 地域人材の授業への参加・協力は、生徒に物事を多面的・多角的に考えさせる機会となり、生徒が主体的によりよく生きる力をはぐくもうとする上において効果的であることが分かった。

ただし、ねらいを達成するための手段であり、活用することが目的とならないように留意したい。綿密な事前連携は不可欠である。

道徳教育を通じて育成される道徳性は、「豊かな心」だけでなく、「確かな学力」や「健やかな健康」の基盤ともなり、「生きる力」を育むために極めて重要なものであることは変わらない。

今後は、そうした認識の下、「学力向上と道徳教育との関連」「生徒指導と道徳教育との関連」

「家庭・地域社会との共通理解の深化及び相互の連携の充実」などにもより一層取り組んでいく必要があると考える。

【参考】県大会に向けた全体構想図

**【研究主題】** ※第31回広島県中学校道徳教育研究大会  
**他者と協働し、主体的によりよく生きる力をはぐくむ道徳教育**  
**～自ら深く考え、議論する道徳の時間を通して～**

1 主題設定の理由

「これからの時代に求められる資質・能力の育成」や、「アクティブ・ラーニング」の視点からの学習・指導方法の改善を先取りし、「考え、議論する」道徳科への転換を図るとともに、呉の学校教育のキーワードである「協働」「小中一貫」を踏まえた効果的な指導方法等の開発や共有などを通じて、郷土を愛し、郷土に誇りをもてる心豊かでたくましい「呉の子ども」を育てるため。

2 内容

